

を設けてほしいという願いを提出しました。

「人の心は親子の愛が一番強く、世の中では子供を育てることが一番大切な仕事であります。けれども、今の世の中には捨子やみなし子が、町にあふれています。これをなくす仕事は、瓜生岩子個人の方では何ともできません。」

このように、岩子は、貧しい子を救おうと国の議会にまで訴えたのですが、この願いはとり入れられませんでした。

また、明治二十九年（一八九六年）、全国に養育院よういくいんをつくることを呼びかけました。

「貧しい子を育て捨子をやめさせることは、人々の自覚じかくと産婆さんばの教育が大切です。さらに貧しい人々が世の中にたくさんいることは、世の中にも責任があります。この貧しい人々を救うすくために政府はあまり力を入れてくれません。しかし、幸福は下からもりあげていくものですから、みんなの力で、貧しい